

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三菱自動車工業株式会社(仮称)新#204工場	階数	地上3階
建設地	愛知県岡崎市橋目町字中新切1番	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	299 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年4月 予定	評価の実施日	2018年6月14日
敷地面積	10,392 m ²	作成者	安藤 寿洋
建築面積	7,382 m ²	確認日	2018年6月10日
延床面積	14,004 m ²	確認者	伊藤 千寿



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	91%
③上記+②以外の	91%
④上記+	91%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境	温熱環境	光・視環境	空気質環境
N.A.	N.A.	N.A.	N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

機能性	耐用性	対応性
N.A.	2.9	3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

生物環境	まちなみ	地域性・
1.0	3.0	2.0

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

建物外皮の	自然エネ	設備システ	効率的
N.A.	3.0	3.0	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

水資源	非再生材料の	汚染物質
3.4	3.6	3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化	地域環境	周辺環境
3.3	3.1	3.0

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3.3

③敷地内の緑化

1.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

0.0 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

②資源の有効活用

3.3

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							建物全体・共用部		建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体				
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体								
		Q 建築物の環境品質																2.5			
Q1 室内環境																					
1 音環境																					
1.1 室内騒音レベル																					
1.2 遮音																					
1 開口部遮音性能																					
2 界壁遮音性能																					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																					
1.3 吸音																					
2 温熱環境																					
2.1 室温制御																					
1 室温																					
2 外皮性能																					
3 ソーン別制御性																					
2.2 湿度制御																					
2.3 空調方式																					
3 光・視環境																					
3.1 昼光利用																					
1 昼光率																					
2 方位別開口																					
3 昼光利用設備																					
3.2 グレア対策																					
1 昼光制御																					
3.3 照度																					
3.4 照明制御																					
4 空気質環境																					
4.1 発生源対策																					
1 化学汚染物質																					
4.2 換気																					
1 換気量																					
2 自然換気性能																					
3 取り入れ外気への配慮																					
4.3 運用管理																					
1 CO ₂ の監視																					
2 喫煙の制御																					
Q2 サービス性能																0.43		3.2			
1 機能性																					
1.1 機能性・使いやすさ																					
1 広さ・収納性																					
2 高度情報通信設備対応																					
3 バリアフリー計画																					
1.2 心理性・快適性																					
1 広さ感・景観 (天井高)																					
2 リフレッシュスペース																					
3 内装計画																					
1.3 維持管理																					
1 維持管理に配慮した設計																					
2 維持管理用機能の確保																					
2 耐用性・信頼性																2.9		0.52		2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振																3.0		0.48			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																3.0		0.80			
2 免震・制震・制振性能																3.0		0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数																3.0		0.33			
1 躯体材料の耐用年数																3.0		0.23			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																3.0		0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																3.0		0.09			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																3.0		0.08			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																3.0		0.15			
6 主要設備機器の更新必要間隔																3.0		0.23			
2.4 信頼性																2.6		0.19			
1 空調・換気設備																3.0		0.20			
2 給排水・衛生設備																3.0		0.20			
3 電気設備																3.0		0.20			
4 機械・配管支持方法																3.0		0.20			
5 通信・情報設備																1.0		0.20			

3 対応性・更新性				3.6	0.48			-	3.6
3.1 空間のゆとり		②	階高4.25m以上 壁長さ比率:0.07	5.0	0.31			-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22			-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.2
LR1 エネルギー					0.40				3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.80		-			-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28			-	3.0
3 設備システムの高効率化			高効率設備機器を採用	3.0	0.43			-	3.0
4 効率的運用				3.0	0.29			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価					-			-	
4.1 モニタリング					-			-	
4.2 運用管理体制					-			-	
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.5
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水型便器の採用	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.6	0.63			-	3.6
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	再生骨材(路盤)、タイルカーペット	4.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上りが分別可能。内装と設備が取り外し可能。	5.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22			-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			接着剤、塗料で有害物質を含まない材料を採用	5.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤					-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境					0.30				3.1
1 地球温暖化への配慮		①	排出率81%	3.3	0.33			-	3.3
2 地域環境への配慮				3.1	0.33			-	3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温暖環境悪化の改善				3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	敷地全体で対応し、かつ搬出入を確保 適切なゴミ分別回収のための空間確保	5.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				4.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	0.33			-	
2 振動		独自		3.0	0.33			-	
3 悪臭				3.0	0.33			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制					-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			広告物照明の設置なし	3.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

三菱自動車工業株式会社(仮称)新#204工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場に相応しい性能と精度を確保した建物 ・仕様の最適化を図り、コストパフォーマンスに優れた建物
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象外
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節水器具の使用 ・階高4.25m以上を確保 ・壁長さ比率を0.07とし、自由度の高い空間としている。
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視線を遮るような、高木・フェンスの設置はなく、防犯性に配慮している
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高効率の設備機器を採用
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節水器具の採用 ・リサイクル材を使用 ・躯体、内装材、設備が錯綜しない ・有害物質を含まない材料を各所に使用している
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卓越風向に対する見付面積を60%以下としている ・隣棟間隔を50%以上としている
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>